

事務事業名	水処理センター施設管理事業			担当	建設部 下水道課 水処理センター		
政策名	D	自然と潤いがある安全快適なまちづくり		電話番号	0285 - 82 - 7313		
施策名	2	下水道事業の推進		<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業			
基本事業名				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ		
法令根拠	下水道法				<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 昭和57 年度～）		
予算科目	9.公共下水道事業特別会計	1.公共下水道費	2.施設管理費		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）		
事業概要	<p>真岡市の水処理センターは、快適な市民生活環境の確保と、河川等の水質保全を目的として計画された施設で、市民が利用した後の生活排水等を浄化して河川に放流している。</p> <p>水処理センターは、標準活性汚泥法により浄化した後、五行川に放流している。（施設の概要）敷地面積 44625m² 管理本館 2609.45m² 沈砂池ポンプ棟 1459.19m² 送風機棟 982.12m² 汚泥処理棟 1725.70m² 汚泥濃縮棟 653.44m² 塩素池和槽 98.98m² 沈砂池 2池 200m² 最終沈殿池 3池 1701m² エアレーションタンク 3系 8242m² 最終沈殿池 3系 3488m² 塩素池和槽 6水路 504m² 汚泥貯留タンク 1槽 151m² 汚泥濃縮タンク 2槽 汚泥消化タンク 4槽 3167m² ガスタンク 2槽 1500m³ 送風機設備 3台 汚泥脱水機設備 2台</p> <p>二宮水処理センターは、オキシアンジオキソ法により汚水中有機物を水深の浅い無絡端水路を反応タンクとして低負荷条件下で微生物の働きによって分解する方法により浄化した後、西川に放流している。</p> <p>（施設の概要）敷地面積 9,836m² 管理棟 899.11m² 沈砂池ポンプ棟 150.01m² 塩素池和槽 29.00m² 沈砂池 1池 エアレーションタンク 1系 1752m² 最終沈殿池 2系 666m² 塩素池和槽 1水路 37.5m² 汚泥貯留槽 1槽 36.8m³ 汚泥濃縮槽 1槽 汚泥脱水機 1台</p>						

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

① 手段（主な活動） 22年度実績 施設・設備等の突発的な故障等に対する修理等を行った。 23年度計画 施設・設備等の突発的な故障等に対する修理等を行う。	⑤ 活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移						
	名称	単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)
	ア 点検箇所（真岡）	箇所	8	8	8	8	8
	イ 修繕箇所（真岡）	箇所	12	13	16	18	15
	ウ 点検箇所（二宮）	箇所			5	5	5
	エ 修繕箇所（二宮）	箇所			3	2	3
	オ						
② 対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 水処理センターの設備・施設	⑥ 対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移						
	名称	単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)
	ア 施設延床面積（真岡）	m ²	6,989	6,989	6,989	6,989	6,989
	イ 設備（池・槽・送風機・脱水機）（真岡）	箇所	28	28	28	28	28
	ウ 施設延床面積（二宮）	m ²	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078
	エ 設備（池・槽・脱水機）（二宮）	箇所	8	8	8	8	8
	オ						
③ 意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 良好な処理能力の維持	⑦ 成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移						
	名称	単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)
	ア 設備修理（真岡）	件	12	13	15	18	15
	イ 設備修理（二宮）	件			3	2	3
	ウ						
	エ						
	オ						
④ 結果（どんな結果（上位施策）に結びつけるのか） 生活環境の改善（公共用水の水質汚濁防止（下水道法排出基準BOD20mg/L以下・SS40mg/L以下）） 25年度以上上位成果指標を要 年平均放流水質（BOD）（真岡）単位mg/L：19年度5.3 20年度6.0 21年度10.2 22年度6.5 年平均放流水質（SS）（真岡）単位mg/L：19年度5.7 20年度6.0 21年度6.8 22年度6.0 年平均放流水質（BOD）（二宮）単位mg/L：19年度1.3 20年度1.7 21年度2.3 22年度3.9 年平均放流水質（SS）（二宮）単位mg/L：19年度1.1 20年度1.2 21年度1.1 22年度2.1	⑧ 上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移						
	名称	単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)
	ア 放流先河川（五行川）の水質（BOD）	mg/L	1.6	1.8	1.5	1.3	1.3
	イ 放流先河川（西川）の水質（BOD）	mg/L			4.1	2.4	2.4
	ウ						
	エ						
	オ						

(2) 総事業費の推移		単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)
投入量	事業費	財源内訳					
		国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	9,100	15,063	30,595	43,577
		一般財源	千円	0	0	0	0
	事業費計（A）	千円	9,100	15,063	30,595	43,577	
	人件費	正規職員従事人数	人	3	3	3	3
		延べ業務時間	時間	490	490	673	673
		人件費計（B）	千円	2,053	2,047	2,730	2,872
トータルコスト(A)+(B)		千円	11,153	17,110	33,325	46,449	

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等	
①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	水処理センターは、昭和58年3月に、二宮水処理センターは平成7年3月に公共下水道の供用開始に伴って汚水処理を開始した。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	処理区域の拡大に伴う流入量の増加に対応するため供給開始時は一系（処理能力8650m ³ /日）であった水処理施設を増設し、現在は三系（処理能力26060m ³ /日）で処理している。また供用開始後28年が経過し、施設の老朽化が進んでいる。 二宮水処理センターは、一系（処理能力875m ³ /日）であったが、現在は二系（処理能力1,750m ³ /日）である。供用開始後16年が経過している。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 生活排水を浄化して排出することにより、生活環境の改善と公共用水域の水質保全に結びついている。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 下水道法により、公共下水道の維持管理は市が行う。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 市の所有する施設であり適切である。
有効性 評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 良好な放流水質を維持している。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 生活排水が適切に処理されず、公共用水域を汚濁するなど生活環境に重大な影響を及ぼす。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 事業費の不足により本来の施設能力が発揮できなくなり処理能力が低下する。また、不良箇所の発見や修理の遅れの原因になる。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか？ (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 委託できる業務は委託している。
公平性 評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 受益者から費用を徴収している。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し(<input type="checkbox"/> : 目的妥当性 <input type="checkbox"/> : 有効性 <input type="checkbox"/> : 効率性 <input type="checkbox"/> : 公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項 運転業務と施設管理の事業シートを統一する等の見直しが必要である。																							